

演奏に役立つ ONE POINT LESSON

TRUMPET

トランペット

タンギングについて考えましょう

みなさんお久しぶりです。元気ですかーっ!! さて今回は「タンギング」について考えていくましょう。「タンギング」ってなんなんでしょうねえ?

■Tonguing=タンギング

「タンギングの意味って何？」と質問すると、「音を区切る」とか、「音の出だしをはつきりさせる」という答えがよく返ってきます。まあそれは間違いじゃないかもしれないけれど、正解というわけでもなさそう。そこで恒例の言葉の意味から考えるシステム!!

タンギングの綴りは「Tongu」+「ing」になります。この「Tongu」の原型は「Tongue =舌」という英単語です。なので、「Tonguing」とは「舌が ing している（動いている）」という意味になります。ちなみにドイツ語では「Zungenschlag」と言います。直訳すると「Zunge=舌」が「Schlag=打撃」しているという意味です。ちょっとおっかない感じですが…どう？イメージをつかめましたか？

■喋ることは大事なこと

大事なことを一つ。トランペットを吹くということにおいて、きちんと言葉を喋ることってすごく重要なんです！ 普段から挨拶や受け答えなどをはっきりと喋っていますか？ トランペットを吹くことは特別なことでなく、日常生活のいろんなこととつながっていますからね。

ではタンギン

ゲを実感してみ

ましょう！ 日本語は五十音から成り立っていますね。そのなかで最初に「た =Ta」をとりあげて喋ってみてください。どうですか？ 舌は

どんな風に動きましたか？ こんな風ですか？

『①舌の先が②上前歯の裏側に③あたる。』

では【譜例】をやってみましょう。このとき適当に音を出すのではなく、はっきりと言葉を「Ta」と喋って舌の動きを確認しながら吹いてみてください。

■ タンギングいろいろ

まず初めに「Ta」というタンギングを実感してもらいましたが、他にもタンギングにはいろんな種類があるのです。先ほど日本語は五十音から成り立っていると書きましたが、そのなかから僕が考えるには「は」「た」「か」「ら」、この4つの言葉が重要だと思います。

- 「は=Ha」と喋るととき、舌はほとんど動きませんね。コレは前々回の最後に少し書いたように、タンギングをせずに音を出すときの発音です。

- ・「た=Ta」はタンギングの基本形です。強く硬く、もしくは弱く柔らかく発音を自由に操ることによって表現の幅が増すのです。
- ・「ら=La」と発音するときは“舌の先が上前歯の裏側の付け根より少し上”にあたります。これは「Ta」に比べて柔らかい表情が出しやすいタンギングですね。別名レガート・タンギングともいいます。
- ・「か=Ka」のタンギングを鍛えることによって、ダブルタンギングやトリプルタンギ

発音するときに“舌の後ろの方が動いている”的を確認できますか？

補足説明ですが、金管楽器には「シングル」「ダブル」「トリプル」の3種類のタンギングがあります。「シングル」はその名の通り、1種類の発音(例: Ta や La)でのタンギングです。「ダブル」は異なる2種類の発音(例: TaKa - Taka)を1組にすること。「トリプル」は、異なる種類のタンギングを3つ1組にして発音することです(例: TaTaKa や TaKaTa)。

基本的にはシングルで演奏するのですが、ダブルやトリプルは、シングルで追いつかれない速いタンギングを求められたり、音符のキャラクターにマッチしたときに効果的に使います。

先ほどの「譜例」を「Ta」だけでなく、「La」や「Ka」でもやってみましょう！

■ 今回のまとめ

「私たちは普段何気なく自然に言葉を喋っています。ただ、楽器を吹くときにはその言葉を操ることを忘れてしまいがちです。言葉を喋ることを意識するだけで、ずいぶんよくなるはずです。」

以上がタンギングについての説明です。あとは音階練習をするときなどに常に発音、舌の動きを確認しながらやってください。根気よくね。また、楽器を吹く前に、その音符を発音しながら歌ってみるのもいいですよ！自分がどんな風に表現しようとしているのかわかる！ 陛下で歌うのも薦めです！

お薦めCD

ラインホルト・フリードリッヒ
『Trompetenkonzerte des Barock』

capriccio-10529
テレマン：協奏曲、ファッショ：協奏曲等
※僕が現在師事している先生です！彼の言葉が聞こえてくると、また前もって演奏です。

お薦め演奏会

京都市交響楽団第514回定期演奏会／